

市町村教育委員会の回答結果（概要）

（※市町村教育委員会の主な回答をまとめたもの）

【学校評価を活用した、学校の課題に直結した目標や取組の設定と短期の改善の徹底】

- 全ての教委が、
 - ・ 重点目標等の焦点化、検証可能な達成指標の設定など、学校評価について指導。
 - ・ 「学校評価の手引き」（平成25年1月）に基づく提案により、学校改善が進んだと回答。

【教職員評価システムに基づく、全教職員への目標の徹底と個人目標への連鎖の徹底】

- 全ての教委が、
 - ・ 重点目標、各分掌等の目標、各教職員の目標の連動について指導。
 - ・ 「教職員評価システム実施手引き」（平成25年4月）に基づく提案により、学校改善が進んだと回答。

【主要主任等の役割の一層の充実と主任手当の趣旨の徹底】

- 全ての教委が、
 - ・ 主任の承認に際し、主要主任等に主任制度及び主任手当の趣旨が徹底されるよう、管理職や主要主任等を指導。
 - ・ 「芯の通った学校組織」の取組を通じて、主要主任の学校運営への意識が高まったかについて「とてもそう思う」と12教委が回答。一方、「自らの分掌等の教職員に指導・助言を行う意識が高まった」、「自らの分掌等の教職員の意見をとりまとめ、管理職に提案する意識が高まった」と回答したのは7教委。

【企画立案の場としての運営委員会の活用推進の徹底】

- 運営委員会について指導している教委から指導していない教委まで、ばらつきがある。
- 運営委員会を設けた効果については、「主要主任等の学校運営への参画意識が高まった」とする教委が最も多く、12教委。

【目標の共有による家庭や地域との協働の徹底】

- 保護者や地域住民に対し、学校の重点目標や学力・体力の結果等をどう知らせているか、また、それらについてどれくらい学校・家庭・地域で話し合う機会があるかを「よく把握している」とする教委より、「ある程度把握している」とする教委の方が多い。

【目標達成に向けた組織的な学力・体力向上】

- 校長の授業観察や、学校の重点目標に結びついた校内研究の推進を、全ての教委が指導。
- 教委が重視している授業改善のポイントで多いのは、以下の5つ。
 - ① 1時間の展開の在り方（目当て・課題-展開-まとめ、つかむ-広げる・深める-まとめる等）：13
 - ② 単元展開の在り方（探究型・問題解決型・単元を貫く言語活動等の重視等）：9
 - ③ めあてや課題の質：8
 - ④ 習熟の程度に応じた指導支援の在り方：8
 - ⑤ 構造的な板書やノート指導の在り方：7
 - ※ 他方、「評価基準や評価方法」、「まとめや振り返りの在り方」を重視している教委はない。
- 全ての教委が、校内研究のテーマの実態を把握していると回答。

【県教育委員会の推進方策について】

- 学校の組織力の向上、組織的な学力・体力等の向上を進める上で、最も求められている方策は、主幹教諭の配置（17教委）。
- 教育センター等による学校マネジメント研修、教育事務所による学校訪問は、ほぼ全教委が、「役に立っている」と回答。
- 全ての教委が「大分の教育はより良くなっている」と回答。その主な理由は、以下の通り。
 - ・ 目標達成に向けた組織的な学校運営により、教職員の意識改革や学校改善が図られている（12）。
 - ・ 各種学力調査の結果や体力・運動能力調査の結果が向上してきている（7）。
- 今後、市町村教委が県教委に期待する主な内容は、以下の通り。
 - ・ 教職員配置の充実や教職員人事の改善（12）
 - ・ 研修の充実や学校の好事例の共有（3）
 - ・ 会議・研修の精選（3）